

都道府県名

佐賀県

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	武雄市立東川登小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	12
児童数	30	29	34	29	28	33	1	184	

II 研究の概要

1. 研究主題

確かな表現力を身につけ、豊かに伝え合う児童の育成
～基礎・基本の定着をめざした授業づくり～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- 全学年・国語
すべての教科の基礎となる国語力、特に伝え合う力の育成が重要であると考えたため

(2) 年次ごとの計画

- | | |
|----------------|---|
| 平成
14
年度 | <p>○ テーマ
国語科「話すこと・聞くこと」を中心とした確かな表現力の育成</p> <p>○ 研究の見通し（仮説）
朝の時間や週時程、児童の興味・関心がわくような資料・題材で日常的に「話す・聞く」活動を設け継続的に指導をしたり、国語科の年間計画の中に、2学年のまとまりを考慮した「話すこと・聞くこと」に関する重点指導項目を設け、少人数やTTなどのきめ細かな指導の授業実践をしたりしていけば、正しい発音、適切な言語表現で喜んで話し、同時に相手の意図をくみ取り理解しながら聞くことができる児童が育つであろう。</p> <p>○ 研究の内容・方法</p> <p>① 国語科に関する学力向上のための理論研究
・講師招聘による校内研修会の開催
・先進校視察</p> <p>② 児童の実態把握
・NRTテスト、アンケートの実施（児童・保護者・教諭）</p> <p>③ 指導計画の作成
・「話すこと・聞くこと」に関する目標系統表
・国語科年間指導計画
・全校読書及び東っ子タイムの年間計画</p> <p>④ 「話すこと・聞くこと」に関する基礎・基本の定着をめざした授業づくり
・TTや少人数指導によるきめ細かな指導、習熟度別指導等の工夫</p> <p>⑤ 朝の時間の活用
・全校読書の時間の有効な活用
（担任や保護者読み聞かせ、自由読書など）
・詩の音読、暗唱、視写、聴写、及び漢字の読み書き練習など</p> <p>⑥ 校内での授業研究会</p> <p>⑦ 提案授業（公開授業）の実施（年間2～3回程度）</p> <p>⑧ 児童の学力の評価・考察及び1年次の研究のまとめ</p> |
|----------------|---|

- | | |
|----|---|
| 平成 | ○ テーマ
国語科における『伝え合う力』（「話す・聞く」「書く」）を中心とし |
|----|---|

15
年
度

た基礎・基本の定着をめざした授業づくり

- 研究の見通し(仮説)
児童の興味・関心がわくような資料・題材で日常的に言語活動を設け、継続的に指導をしたり、話す・聞く・書く・読む活動を相互に関連させたりしながら少人数指導やTTなどのきめ細かな指導を展開していけば、確かな言語表現で意欲的・意図的に自分らしく伝え合うことができる児童が育つであろう。
- 研究の内容・方法
 - ① 伝え合う力の育成及び基礎・基本の定着をめざす国語科を中心とした授業研究
 - ・NRTテスト、CRTテストによる児童の実態、学力の変容の考察
 - ・アンケートの実施(児童・保護者・教諭)
 - ・国語科及び他教科、総合的な学習と関連させた単元構成の工夫
 - ・講師招聘による理論研究及び学習指導案検討
 - ・校内での授業研究会
 - ・提案授業(公開授業)の実施(年間3回程度)
 - ・指導と評価の一体化をめざした評価方法の工夫
 - ・授業を支える基礎・基本を身につけるための朝の時間や特設の時間の活用
 - ・学んだことを生かし、表現する場の設定(集会活動、体験的な活動、地域との連携等)
 - ☆ 朝のチャレンジタイム
読書力の育成を重点目標とする。昨年度から実践してきた音読や漢字の練習も継続し、指導計画の作成や環境整備に努めるものとする。
 - ☆ 東っ子タイム
「話す・聞く」活動の場として時間を設定し、実践していく中で、目的・意図に応じて相手を意識して話したり、正確に聞き取ったりしようとする態度を育てる。
 - ☆ いきいきタイム
算数の授業時間最初の5分を「いきいきタイム」として位置づけ、前学年までの既習内容から簡単な計算練習問題をやる。
- ② TTや少人数指導によるきめ細かな指導の工夫
 - ・NRTテストによる理解度の考察
 - ・国語科及び算数科(数と計算領域)の2教科を中心に、各学年での児童の実態や発達段階を考慮した年間の重点指導単元の設定
 - ・指導形態の工夫として、全児童の基礎・基本の定着を図るために、指導計画へのTTや少人数指導の効果的な位置づけ
- ③ 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発
 - ・学習に活用できるような地域教材の開発及び地域人材を生かした活動の工夫
 - ・身につけた学力を他教科や全教育活動に生かす発展的な学習材の活用
- ④ 年間指導計画の検討及び付加・修正
 - ・「話すこと・聞くこと」に関する目標系統表の見直し
 - ・「読むこと」「書くこと」に関する目標系統表の作成
 - ・教科書単元の指導内容と評価規準の一体化をめざした国語科年間指導計画の作成
 - ・全校読書及び音読タイム、東っ子タイム年間計画の見直し
- ⑤ 生活リズムの確立及び自主的な家庭学習力を身につけさせるための家庭との連携
 - ・児童の家庭生活、学習の実態把握
 - ・保護者会等を活用した共通理解の場の設定
 - ・学校便り、学級便り、保健だより等による継続的な家庭への連絡
 - ・生活リズム、家庭学習に関する児童及び家庭の実践カードの活用(家庭生活あいうえお、家庭学習のすすめなどを記した「東っ子ノート」)
- ⑥ 児童の学力の伸びの評価及び2年次の研究のまとめ

平成
16
年

- テーマ
国語科を中心とした基礎・基本の充実をめざした指導法の開発、及び多様な場、多様な体験を通して豊かに「伝え合う力」の育成

度

○ 研究の見通し（仮説）

3領域・1事項の総合的な国語科学習指導による基礎・基本の徹底及び少人数指導やTTなどのきめ細かな指導の展開を行ったり、身につけた確かな表現力を他教科や全教育活動で活用する場を設け、日常的・継続的に指導をしたりしていけば、伝え合うことのよさを味わい自己の生活を豊かにしようとする児童が育つであろう。

○ 研究の内容・方法

① 伝え合う力の育成及び基礎・基本の定着をめざす国語科を中心とした授業研究

- ・NRTテストによる児童の実態、学力の変容の考察
- ・アンケートの実施（児童・保護者・教諭）
- ・学力に関する本校のとらえ方についての共通理解
- ・国語科及び他教科、総合的な学習の時間と関連させた単元構成の工夫
- ・講師招聘による理論研究及び学習指導案検討
- ・提案授業（公開授業）の実施
- ・3領域1事項の総合化・学ぶ力の向上をめざした基本的な指導過程の確立及び話し合い、音読、読書活動等の指導法の明確化・系統化
- ・指導と評価の一体化をめざした評価方法の工夫
- ・授業を支える基礎・基本を身につけるための朝の時間や特設の時間の活用
- ・学んだことを生かし、表現する場の設定（集会活動、体験的な活動、地域との連携等）

☆ 朝のチャレンジタイム

読書力の育成を重点目標とする。個人での精読、担任・級外・保護者による読み聞かせに加え、14年度から実践してきた音読、漢字スキル学習も継続化を図り、指導の充実と環境整備に努めるものとする。

☆ 東っ子タイム

前年度までの実践をもとに、計画の見直しを図り、主に「話す・聞く」活動の場と週1回の補充学習の場として設定し、実践していく中で、「伝え合う力」の素地となる目的・意図に応じて相手を意識して話す力、相手の意図を受けて正確に聞き取る力や態度を育てる。

☆ いきいきタイム

算数の授業時間最初の5分を「いきいきタイム」として位置づけ、前学年までの既習内容から簡単な計算練習問題をすることで、問題解決への入り口とし、計算処理能力の向上・定着を図る。

② TTや少人数指導によるきめ細かな指導の工夫

- ・NRTテストによる理解度の考察
- ・国語科及び算数科（数と計算領域）の2教科を中心に、各学年での児童の実態や発達段階を考慮した年間の重点指導単元の設定
- ・指導形態の工夫として、全児童の基礎・基本の定着を図るために、指導計画へのTTや少人数指導の効果的な位置づけ

③ 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発

- ・学習に活用できるような地域教材の開発及び地域人材を生かした活動の工夫
- ・身につけた学力を他教科や全教育活動に生かす発展的な学習材の活用

④ 年間指導計画の検討及び付加・修正

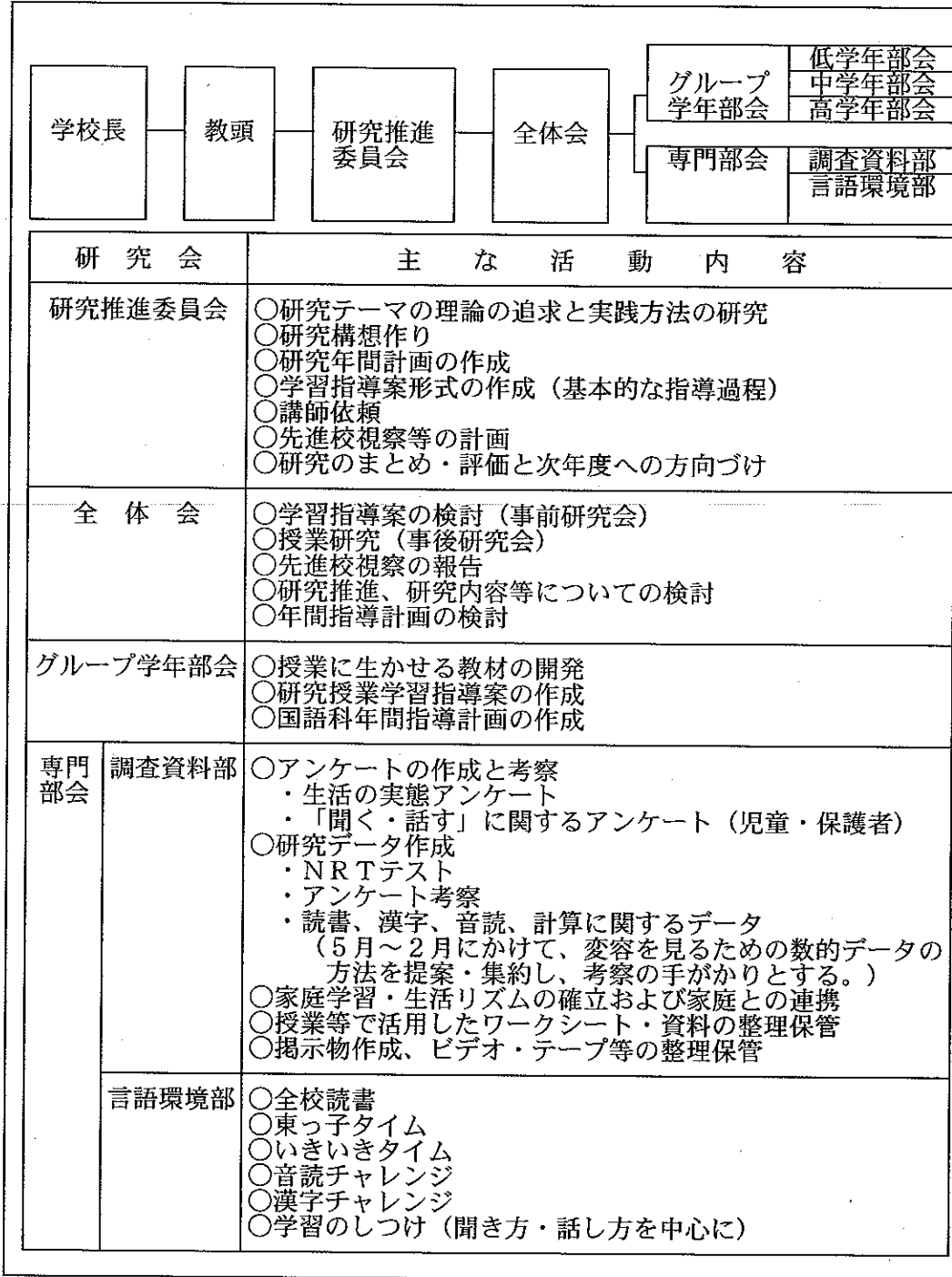
- ・教科書単元の指導内容と評価規準の一体化をめざした国語科年間指導計画の検討
- ・全校読書及び音読タイム、東っ子タイム年間計画の見直し

⑤ 生活リズムの確立及び自主的な家庭学習力を身につけさせるための家庭との連携

- ・児童の家庭生活、学習の実態把握と分析
- ・保護者会等を活用した共通理解の場の設定
- ・学校便り、学級便り、保健だより等による継続的な家庭への連絡
- ・生活リズム、家庭学習に関する児童及び家庭の実践カードの見直し、効果的な活用法の検討
（家庭生活あいうえお、家庭学習のすすめなどを記した「東っ子ノート」）

⑥ 児童の学力の伸びの評価及び3年次の研究のまとめ

(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 伝え合う力の育成及び基礎・基本の定着をめざす国語科を中心とした授業研究本校では、今年度の授業づくりの基本姿勢として以下に挙げる2点を共通理解し、実践研究をしてきた。

- ① 子どもたちの言語活動を活性化させ、学力を高めていく指導法の工夫
- ② TTや少人数指導などを生かしたきめ細かな指導の展開

①の視点については、まず、児童の目的意識・相手意識をしっかりと持たせて

学習過程を仕組むことが重要と考えた。つまり、伝える必要性を学習に持たせることである。

各学年の授業実践

- 1年生－ほんわか手紙を書こう「おうちの人に手紙を書こう」
- 2年生－2－1音読劇をしよう「名前を見てちょうだい」
- 3年生－作品の窓を開いて「ぼくはねこのバーニーが大すきだった」
- 4年生－「音楽物語ごんぎつね」の台詞を作ろう！
- 5年生－「動物と環境 座談会」なりきって対談しよう
- 6年生－「どんな」ことば研究 ～心に残る思い出の詩を作ろう～

いずれも、表現活動を行動化していくための「相手・目的」が設定されており、学習のゴールが児童にも見通せる過程である。このように、学習に使用する教材を「学びを獲得するための単元」＋「獲得した力を伝え合うことで深め広げる単元」として仕組むことで学ぶ意欲を高めることができた。ただし、このような単元構成にすると、どうしても長時間の大単元構成にならざるを得ない。そこで、他教科および総合的な学習の時間との学習目標を照らし合わせながらクロスカリキュラムで展開していった。言語活動は国語科に位置づけ、調査活動や体験的な活動などは他教科で位置づけることにより押さえたい指導事項が焦点化されるとともに、指導時間にもゆとりが生まれ、一人一人に対応する支援が可能になったといえる。

次に、「聞く・話す」力の育成を中心とした基礎・基本を身につけさせるための手だても重要である。3領域1事項をバランスよく高めていくために言語活動の総合化を試みた。各領域ごとに主な本年度の取組を挙げてみる。

☆「聞く・話す」領域

- ・音読劇づくり
- ・ブックトーク
- ・「声のアルバム」づくり
- ・出前読み聞かせ
- ・感想交流
- ・読書交流会
- ・ポスターセッション
- ・討論会

☆「書く」領域

- ・「ほんわかことば（擬情語）」を遣って手紙文を書く。
- ・登場人物の心情を想像しながら台詞を書く。（物語教材）
- ・文や段落相互の関係を考えながら対談原稿を書く。（説明文教材）
- ・自分が考えたことばを短文に表す。
- ・様子や感じを表すことばの繰り返しや構成の工夫をして詩を書く。

☆「読む」領域

- ・音読活動の充実
- 一人読み（微音読）→二人読み→グループ読み→リレー読み→一斉読み→群読など

- ・読み取ったイメージを表現（抑揚・調子・強調・速さなど）
- ・繰り返し音読による読みの変容・高まり
- ・個々の音読を聞き合いながら、一人一人の読みのよさ・味わいを共感する

- ・「光ることば」探し
（主人公の心情を表すキーワード、説明文の中心語句など）
- ・根拠となることばを手がかりにして、主人公の心情曲線を書く。
- ・複数作品の読み比べ（共通点・相違点を視点に）

☆言語事項

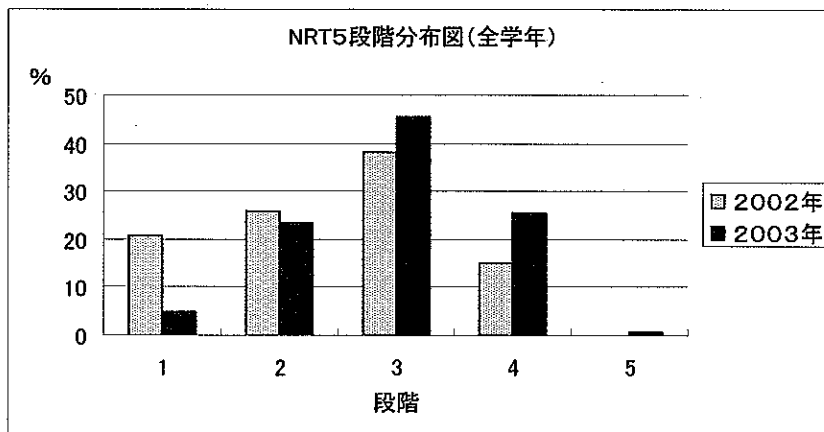
- ・身近な写真から様子や感じを表すことばを想起し、その意味や使い方を調べる。
- ・自分の思いを表すために一番ふさわしいことばを選択・吟味する。
- ・必要な語句について、辞書を利用して調べる。

上に挙げたものは主な取組であるが、授業研究を行う際に、指導目標・指導内容・評価規準を各学年での発達段階や児童の実態と照らし合わせながら実践してきたその結果、学ぶ意欲の向上、基本的な学習技能の向上、さらには学んだことを多様な場で生かす経験ができたと考える。今後は、今年度の実践を整理し、付加修正しながら、学年での系統性や各領域での有効な活用法などを探っていく必要がある。

- (2) T Tや少人数指導によるきめ細かな指導の工夫
 今年度の国語科実践から、具体的に効果として表れたことを挙げてみる。
- ☆ 「出会う」段階
 単元の入り口を全体で確認し、相手・目的意識を持たせ学習全体を見通し方向性を持たせるためにもT Tの指導形態が有効である。
 - ☆ 「とらえる」「ためす」段階
 単元での具体的な言語活動が展開されていくために、興味・関心の違いや個々の習熟の差が生じやすい段階でもある。従って、少人数指導とT Tの併用が有効である。
 - <T T>
 - ・物語や説明文の内容の読み取りで、全体討議を通して読み深めていく場面など
 - ・「聞く・話す」活動での中間報告会など
 - <少人数>
 - ・表現活動を伴う場面
 (リハーサルや原稿メモ作り等。少人数で行うことで、活動の場が充実する。苦手意識の軽減。作業時間に差がある場合などは、1クラスをリハーサル中心の指導に、もう1クラスは原稿作りや個人指導の場に当てるなど柔軟に対応することで、個人差に応じた指導が幅広くできる。)
 - ・興味・関心別、課題別、体験的な学習などを伴う場面
 (学習の最終ゴールを見すえ、活動内容が2～3コースに分かれる場合など)
 - ☆ 「深める・広げる」段階
 最終的な表現活動が展開されるため、ここではT Tの指導形態をとることが多い。
 具体的な目的・相手を意識した学習が展開されるため、特にこの段階では「聞く・話す」の視点を十分に個別指導することになる。また、視聴覚機器などの有効利用も児童の学習への成就感を味わわせる手だてとなる。

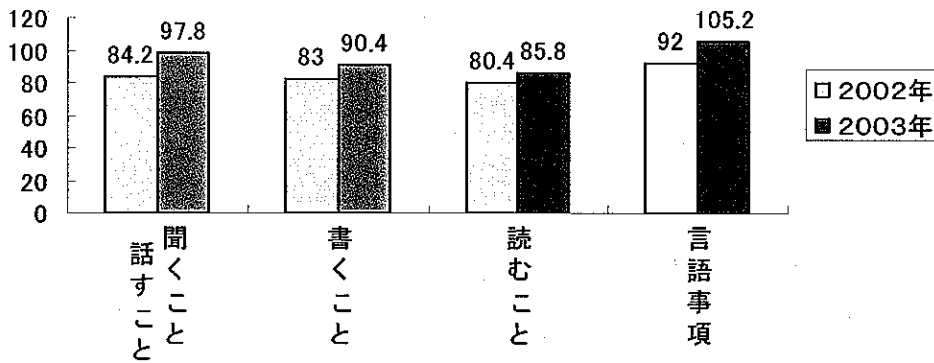
国語科 学力検査(NRT)結果の推移

本校は子どもの確かな学びの伸びをみるために、二年間(2002年・2003年度)にわたり実施したNRT(全国標準診断的学力検査)による結果を領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」に分けて比較したものである。(全国比を100としたものである。)



5段階分布で見ると、前年度の左寄り山型から、バランスのよい富士山型へと形を変えている。このことから、低位の児童の学力が特に向上していることがわかる。今後も、補充指導や日常的な指導を継続していき向上を図りたい。5段階の児童が少ないため、これまでの補充指導中心の取組に加え、発展的な指導も行う必要がある。

国語 領域別比較(全国平均を100として)



全体的に見て、本年度は昨年度よりすべての領域で上回っている。4領域の観点から見ると、「聞くこと・話すこと」においては、本校の取り組んでいる「話し方あいうえお」や「聞き方あいうえお」など、児童の日常生活において常に「聞く・話す」ことを意識づけてきたことによるものである。「聞き方・話し方」等の学習のしつけを身につけさせることがすべての学力の土台を引き上げることに繋がるものと本校では位置づけている。今後は「東っ子タイム」等、話し合い活動や発表活動などの実践を積み上げ、さらに「意図・立場」を明確にして話し合う力を向上させていく必要がある。

「書くこと」においては、向上してはいるものの全国平均と10ポイント近くの開きがあり、今後も特に努力を要する領域である。日常の日記、作文などで気持ちを文章で表現したりすることは習慣化しており、児童の抵抗は少ないと思われる。しかし、発表メモや原稿など要点を絞り込んで伝えるために書くことと技能不足の感がある。今後は、より効果的に伝えるための書く技術の向上にも目を向け手だてを講じる必要がある。

「読むこと」においても、昨年度に比べて向上しているが全国平均までは至っていない。声に出して読んだり、中心点をとらえて読んだりする力についてはきた。これは朝の音読タイムや国語の学習の中で繰り返し暗唱したり群読したりしながら言葉のリズム感や個々の読みぶりを味わう取り組みがよい結果につながったと考える。しかし、本校の児童の傾向として、物語分や短文などは好んで読み読解力は高いが、説明文や長文などには抵抗感があり、比例して読解力も劣る。そこで、言葉に着目して要点をとらえたり、要約したりする活動を増やし、今年度の音読の充実とともに重点的に指導していきたい。

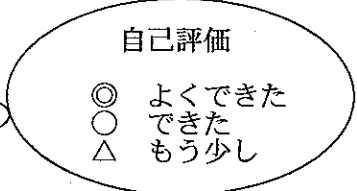
「言語事項」については、昨年度を大きく上回り、一番成果を見せているといえる。これは朝の漢字チャレンジでのミニテストの継続、反復学習が身に付き、読み書きの正確さが増したためであると思われる。しかし、修飾の関係や助詞の遣い方、敬語、辞書を使った言語などはまだ全国平均を下回っている。これらの力をバランスよくつけていくことが伝え合う力を中心とした国語力向上の基礎となる。日常生活を想起した言語を生活に生かす力の育成とともに、言語の決まりや技術などを磨く指導を、児童の発達段階に応じて、系統的に展開していく必要がある。

(3) 生活リズムの確立及び自主的な家庭学習力を身につけさせるための家庭との連携

学力向上をめざした家庭との連携という観点から、今年度から「東っ子ノート」を作成し継続使用することで、学校と家庭両方で児童の生活点検を行うよう努めた。

以下は、ノートに記入し、指導した具体的な項目である。

- ① 基本的な生活習慣の育成
 「家庭生活あいうえお」
あ あいさつ・返事は気持ちよく
い 一日三食しっかり食べよう
う 家に帰って進んで勉強
え えらんで見ようテレビ番組
お 「おやすみなさい」早めに寝よう



② 家庭学習の自立化
・学習時間の目安の提示

1年生-30分	2年生-40分	3年生-50分
4年生-60分	5年生-70分	6年生-80分

・家庭学習内容の提示

・教科書や本の音読	・漢字の読み書き	・計算問題
・ドリル	・日記	・チャレンジ学習(自主学習)等

・家庭学習計画表の記入と点検

・学習した内容	・勉強時間	・おうちの人から一言
---------	-------	------------

毎日の取組に当初、児童・保護者ともに戸惑いが見られたが、児童への日常指導と並行して、家庭への通信や保護者会等での呼びかけを行い、日を追うごとに生活習慣への意識や学習時間や自主学習に対する関心が高まり、家庭での学習の習慣化を図ることができた。来年度は更に児童の意欲を喚起するようなノートへの改善及び日常指導の充実を図るとともに、家庭での意識高揚と協力的体制の強化をめざして方策を立てていく必要がある。

(4) 自己評価と他者評価の方法の開発

学習指導案の中に、単元を通しての評価規準、各学習過程における評価項目を明記し、達成できたかを継続的に評価していった。そして、次時の指導に生かすように心がけている。また、児童が使用するワークシート(ノート)にも自己評価や感想欄を設け、単元を通して「めあて→活動→評価」が繰り返されるようにした。この活動で、児童が1時間でめざす姿がはっきり自覚でき、意欲の喚起ができた。

2. 今後の課題

・来年度は、今年度中心に取り組んだ伝え合う力と基礎・基本の定着をめざした授業研究を継続するとともに、その力を他教科や全教育活動で豊かに広げていくような指導、手立ての工夫を深める必要がある。
・TTや少人数などを生かしたきめ細かな指導法の開発。
・学力向上をめざした日常的な指導、朝の時間の活用の工夫。
・生活リズムの確立、自主的な学習を身につけさせるための家庭との連携。

IV 学力等把握のための学校としての取組

・定期的な学力調査の実施(年1回)
・各学年で学習した漢字の音読、書きとり調査(年2回)

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・平成15年6月26日(木)	第3回学力向上フロンティア公開授業研究会
・平成15年8月21日(木)	川登中校区小中合同研修会
・平成15年10月3日(金)	第4回学力向上フロンティア公開授業研究会
・平成16年1月6日(火)	川登中校区小中合同研修会
・平成16年1月30日(金)	第5回学力向上フロンティア公開授業研究会

-
- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 TTによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無